

2015年 新年のご挨拶

社会医療法人同仁会 理事長 齊藤 和則

あけましておめでとうございます。日頃のご指導、ご紹介、情報のご提供、誠にありがとうございます。今年私ども法人は耳原実費診療所開設から65年を迎えます。戦後地域の方々がお金を集め建てた診療所でした。そして4月1日耳原総合病院が新築開院いたします。

いまや日本は世界トップクラスの長寿国になりました。長年地域での健康保持、予防、疾患の早期発見・早期治療に取り組んで来た日本の医療関係者の努力の結果です。加えてWHOも保険制度で悩む米国の医療関係者も「日本の公的医療制度を見習うべき」と発言しています。

一方、昨年4月の診療報酬改定と消費税8%へのアップは医療機関の経営に多大な影響を及ぼしました。今後TPP、非営利

ホールディングカンパニー型法人、医療特区、患者申し出療養制度、特定医療行為の看護師研修制度、医療事故調査制度などが政府から出され、医療制度のあり方が短期間のうちに変えられる可能性も高まっています。

政令市の健康寿命評価がなされ、堺市民がお元気で老後を過ごせるように私たち医療関係者の努力が求められています。2025年地域包括ケアは住み慣れた地域で安心して暮らせるよう費用の負担が少なくてすむことを含めて堺市、そして近隣の医療機関、先生方と連携をしながら進めていきたいと思ひます。

今年一年皆様の一層のご指導と支援をよろしくお願い申し上げます。



事務長 近藤 聡

あけましておめでとうございます。昨年も大変お世話になりました。ありがとうございます。

昨年は診療報酬の改定がありました。当院にも少なからず影響がありました。これまでの続きではなく、地域の中でどのような医療が求められているか、当院の果たすべき役割は何か、しっかり考えていく必要性を再認識させられました。

今年はいよいよ新病院オープンの日です。地域のみなさまのご支援、ご協力をいただいて、私たちの長年の念願であった新病院が現実のものとなります。これまで以上に地域のみなさま

に信頼いただける病院を作り上げていきたいと思ひます。建物だけでなく、「かかってよかった」「働いてよかった」「あってよかった」を実現できるように努力いたします。いろいろな経過もあり、結果として14階という建物になりました。ランドマークとまではいきませんが、院内外にアートを取り入れるなど、少しユニークな病院になるかと思ひます。お近くに來られた際にはお立ち寄りください。今年もよろしくお願い申し上げます。



社会医療法人同仁会 看護部長 森岡 徳子

新年あけまして、おめでとございます。皆様のご支援で、いよいよ、今年の4月に新病院がオープンします。皆様のお力添えに感謝するとともに、その期待に応えて頑張らねばと、気の引き締まる思ひです。

さて、昨年6月、医療介護総合推進法が成立しました。反対署名に取り組んできた「看護師の特定研修制度創設」もこの総合法に含まれています。超高齢社会に向けて、抜本的に医師や看護師の増員を図るのではなく、職種の役割分担を変えることで安上がりに対応しようとするものです。看護師だけでなく、リハビ

リ、放射線技師、介護職などあらゆる職種の業務範囲を拡大する方向です。医師不足に悩む現場では肯定的な意見も少なくありませんが、安易な業務拡大は患者・利用者の安全を脅かすものです。本来的なチーム医療の推進を図り、患者に寄り添う看護の専門性を発揮できるよう研鑽していきたいと思ひます。医療と介護が連携し、一人暮らしであっても介護が必要になっても、住み慣れた地域で暮らし続けるために、同仁会らしい地域包括ケアの実現をめざしたいと思ひます。



副病院長 救急総合診療科 医師 田端 志郎

社会的問題に関する研究は、海外に比べて非常に立ち遅れています。健康格差が進んでゆく今の日本の中で、救急部門におけるSDHを研究することは非常に意義のあることであり、今年度はこの分野の研究を精力的に行い、その内容を発信してゆきたいと考えています。

これからも、受診された救急患者さんにきちんと質の高い医療を提供できるように努力するとともに、救急受診に至った社会的背景にも目を向け、健康的な街づくりのために役割を果たしてまいりたいと思ひます。



副病院長 整形外科 医師 河原林 正敏

収集と分析が主でしたが、近年では中小の施設からの情報も広く統合しながら情報共有を進めていく流れが作られつつあります。個々の疾患に対する診療のみならず、医療安全についても病医院単位から地域的あるいは全国的なネットワークで協力する時代となって参りました。また、医療介護総合推進法の成立に伴い、今年から新たな医療事故調査制度の運用が始まりますので、この分野でも医療機関同士の連携がますます重要となることが予想されます。これからも、様々な形での地域医療連携を深めていきたいと考えておりますので、ご支援ご指導の程よろしくお願い申し上げます。



総看護師長 北口 律子

をしていただくための入退院支援が必要となって参りました。そのためには、入院の時からその人の生活背景に視点を置いて、退院支援を行う事が重要です。患者さんにとって何が一番良いのか常に考え、患者の意思決定を支援する看護・科学的根拠に基づいた質の高い看護を提供していきたいと思ひます。

4月にはいよいよ新病院がオープンします。知識・技術・判断力・やさしさを兼ね備えた看護専門職として信頼され、皆様に喜んでいただける看護サービスを提供できるよう努力し、チーム医療の中で求められる看護の役割を果たしていきたいと思ひます。



副病院長 泌尿器科 医師 田原 秀男

私事ですが、昨年4月26日恩師の近畿大学医学部付属病院泌尿器科学教室 栗田孝名誉教授が逝去されました。20数年前に私が泌尿器科へ入局した時の教授で、「豊かな」教室を運営されました。「豊かな」と表現しましたが、これは「診療」、「教育」、「研究」、「学会活動」、「論文作成」はもちろんのこと、各教室員には何より「向上心」があったように思ひます。新病院建設に伴い、各医療機器も刷新されます。ハード面の改善は整いました。それに伴いソフト面である各職員のさらなる「向上心」を醸成させ、地域の先生方に貢献できればと考えています。

新年あけましておめでとございます。旧年中同様、新年におきましてもご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願ひいたします。新病院の建設が佳境に入ってきました。外壁の工事はほぼ完成し、内部の工事が急ピッチで進んでいます。2月中には建設会社から病院の引き渡しがあり、3月28日は内覧会、4月1日から数日で引越しを予定しています。勤務医人生の中で一度あるかないかの新病院建設を経験することができ、感慨深いものがあります。新病院建設が今後の耳原総合病院の歴史の中で大きなきっかけになるのは間違いないことですが、どのように運営をしていくのか方向を誤ると地域の先生方との信頼関係は損なわれてしまいます。



副病院長 総合内科 医師 松田 圭市

システムとして医学生が研修病院を選ぶようになって参ります。充実した研修をめざし近年はフルマッチと募集定員をみたく研修医を毎年迎えることができるようになりました。引き続き日常的にカンファレンス等おこない、研修医を育てることを通して医療の質の向上を進めて行きたいと思ひます。4月には長い間の念願であった新病院での診療が開始します。ハードの面では患者様に今よりも快適な療養環境を提供できると思ひます。

医療内容、心のこもった接遇等、ソフトの面でもよりいっそう満足していけるよう病院一同がんばってまいりますのでよろしくお願い致します。

当院は旧厚生省の研修指定病院として長い歴史があり、たくさんの研修医を迎え入れて参りました。新たな臨床研修制度となり、マッチング

新年あけましておめでとございます。昨年は当院へのご支援、ご協力をいただきまして本当にありがとうございました。昨年10月より内科の外来の機能を一部変更致しました。地域の先生方からご紹介いただいた患者様に、専門医を配置しながら全人的な視点で診療させていただき紹介外来を開院いたしました。患者様には一部ご迷惑をおかけしましたが、大きな混乱もなく進めることができました。引き続き患者様、地域の先生方からのご期待に応えられるような内科外来をすすめていきたいと思ひます。



副病院長 病理科 医師 木野 茂生

謹んで新年のお慶びを申し上げます。昨年中はひとかたならぬご厚情を賜り、厚く御礼申し上げます。

2014年は年末の突然のアベノミクス解散で、引き続きアジア近隣諸国との関係悪化は改善の兆しは見られず、与党の圧倒的な数的優位にものを言わせた国会運営がこれからも続いて行われるであろうと考えると、いよいよ先が見えない時代に入参してきたという感を強くしています。一方、私たちの耳原病院にとっては、この4月から始まる新病院での医療展開がますます現実味を持ってきており、職員は期待を膨らませています。2000年のセラチア院内感染事故以来14年が経過する中で、皆様方の厚い御支援により今日を迎えさせて頂いておりますが、昨年問題になっているデング熱やエボラ出血熱など感染症が国際化している一方、院内では多剤耐性菌や医療関連感染の問題など感染症に関する課題については枚挙に暇がありません。

今後計画されている消費税増税やTPP導入による国民皆保険の崩壊など社会の流れを鑑みしても、無料低額診療を上げ、ベッド差額をとらない病院運営を継続して行く責務に身が引き締まる思ひです。

新病院の建設に当たり、院内の倫理委員会の責任者である私の役目は、一人でも多くの職員が治療医学的な見地からだけでなく、ソリッドファクト（健康の社会的決定要因）を含む病気を生み出す背景など医療倫理の側面から患者様をとらえることができるようすることです。そのためには、職員の学習、教育に力を入れ、職員ひとりひとりが医療人を志した初心に立ち返り、耳原病院の存在理由について考える機会となる教育や学習の場を出来るだけ多く持つていくことに鋭意努力してまいる所存でございます。何卒、ご理解、ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

